

# 2020 Inzai City



## 2020 印西市の自然環境

クイナ *Rallus aquaticus*

クイナ（表紙の鳥）

千葉県レッドリスト-動物編(2019 年改訂版)では、消息不明・絶滅生物とされる希少な鳥類となります。

そんな希少な種が、本調査で印旛沼に生息していることが確認されました。それだけ、豊かな自然環境が印西市には、まだ存在しています。

ただし、近年の樹林地の開拓、草地や耕作地の宅地化などにより野生生物の生育生息環境が確実に奪われてきています。

## 目次

1. 本業務の位置づけと活用方法	1
2. 調査概要	2
1) 調査対象及び調査時期	2
2) 調査範囲及び調査地区数量	3
3. 調査結果	4
1) 確認種	4
2) 調査地区ごとの特徴	6



# 1. 本業務の位置づけと活用方法

印西市は、平成 25 年 3 月に「印西市環境基本条例」に基づき、新たな「印西市環境基本計画」を策定しました。この中には、「基本目標 1（自然環境）」の環境施策として、「自然環境調査の実施により動植物の生息・生育種数を継続的把握、公表することで動植物の保全意識の高揚を図るとともに、保全のための仕組みづくりを進めます。」とあります。

さらに、環境基本計画の取り組みの進捗状況を年度ごとに点検・評価し、進行管理を行う必要があることから、環境指標として「生き物の生息・生育種数」が設定されており（表 1）、基準年度（平成 23 年度）と比較して、現状維持の目標が定められています。

表 1 印西市環境基本計画における環境指標（生きものの生息・生育種数）

環境指標		基準年度 (平成23年度)	目標		
			平成27年度	令和3年度	
生きもの 生息・ 生育種数	植物	803	現状維持	現状維持	
	動物	哺乳類			9
		鳥類			102
		爬虫類			11
		両生類			6
		昆虫類			387
		魚類			24

印西市では、「印西市環境基本条例」に基づき、現行計画の期間満了に伴い、本市の目指す環境像や目標、施策について再検討し、環境施策の総合的かつ計画的な推進を図るための「第 3 次印西市環境基本計画」を策定しています。本調査の成果は本計画の環境施策を設定する際の基礎資料としても活用しています。また、今後の活用方法として、印西市生物多様性地域戦略やグリーンインフラに関する計画策定にも活用できるものとなります。

これらの相互関係は、図 1 に示すとおりです。

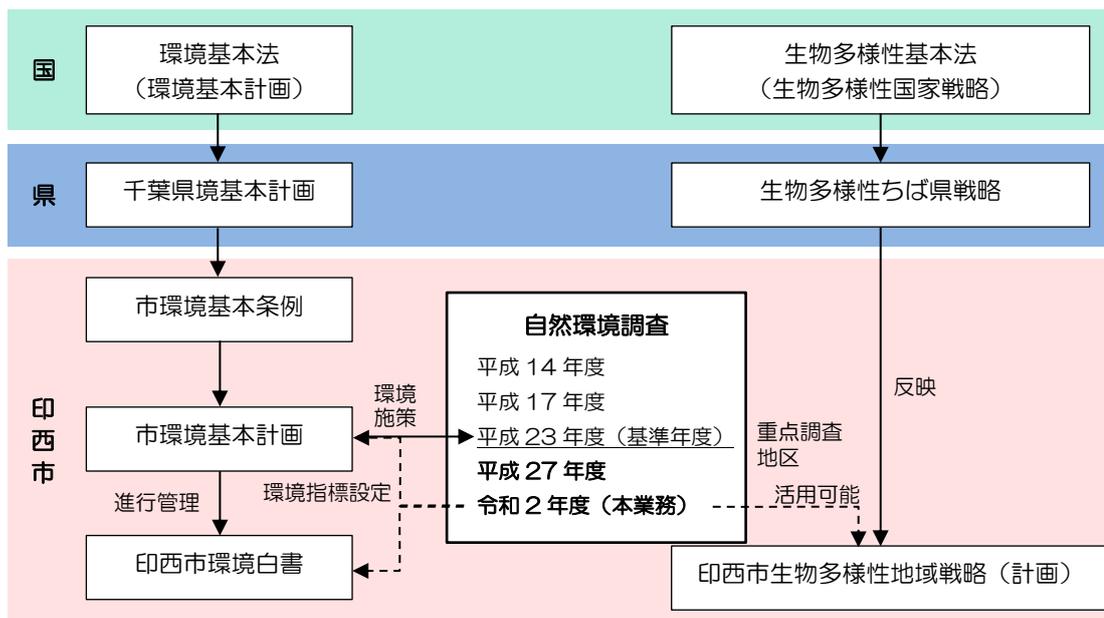


図 1 本業務の位置づけ

## 2. 調査概要

### 1) 調査対象及び調査時期

調査対象は市内に生育・生息する植物・動物とし、水鳥類及びホタル類は別途詳細に調査しました（表2）。

表2 調査対象及び調査時期

調査対象	調査回数	調査時期				
		春季	夏季	秋季	冬季	
植物	3	H27.5.20-21 H27.5.25-28	H27.7.22-24 H27.7.27-29	H27.10.13-15 H27.10.21-22	—	
動物	哺乳類	4	H27.5.18-22	H27.7.13-17	H27.10.13-16	H28.2.1-4
	鳥類	4	H27.5.18-22	H27.7.13-17	H27.10.13-16	H28.2.1-4
	爬虫類	3	H27.5.18-22	H27.7.13-17	H27.10.13-16	—
	両生類	3	H27.5.18-22	H27.7.13-17	H27.10.13-16	—
	昆虫類*	3	H27.5.25-29	H27.7.14-20	H27.9.14-18	—
	魚類	1	—	H27.7.27-31	—	—
水鳥類	1	—	—	—	H28.2.4	
ホタル類	1	初夏 ゲンジボタル：H27.6.2 ハイケボタル：H27.7.13-15				

※昆虫類の調査は、トンボ目及びチョウ類を主対象とし、その他の分類群については可能な限り記録しました。

#### ● 調査の様子



植物調査



哺乳類調査



鳥類調査



爬虫類・両生類調査



昆虫類調査



魚類調査



水鳥類調査



ホタル類調査

## 2) 調査範囲及び調査地区数量

調査範囲は印西市全域です。各調査対象の調査地区は、市内の代表的な自然環境の中から地域に偏りのないように、植物及び動物（魚類を除く）17地区、魚類10地区、水鳥類19地区、ホタル類のべ20地区を選定しました（図2）。

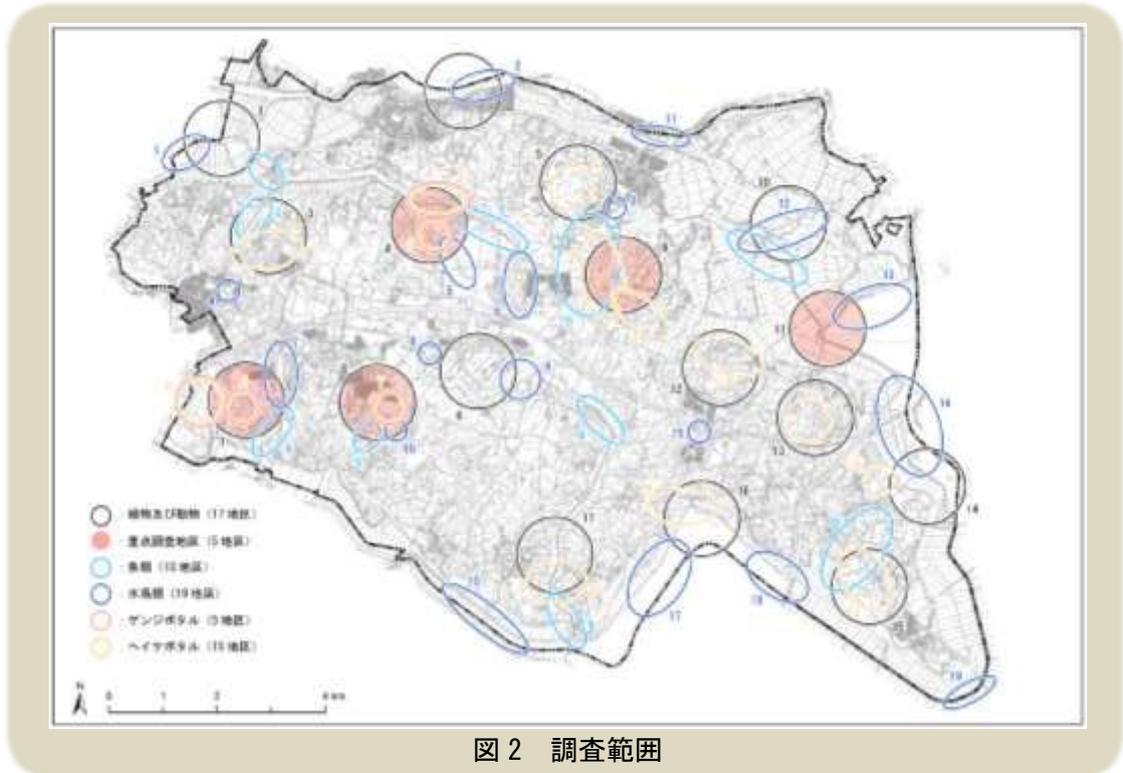


図2 調査範囲

なお、表3に示す理由から、「別所」「武西・戸神」「結縁寺・草深の森」「物木湧水群・竜腹寺」「印旛沼①」の5地区（いずれも植物及び動物（魚類を除く）の調査地区）を、生物多様性地域戦略策定やグリーンインフラ検討のための重点調査地区としました。

表3 重点調査地区の主な選定理由

No.	地区	主な選定理由
4	別所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人為的な影響を受けやすい立地にある</li> <li>・既存調査で希少なトンボ類が多く確認されている</li> <li>・印西市都市マスタープランで環境学習等の交流拠点となっている</li> </ul>
7	武西・戸神	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人為的な影響を受けやすい立地にある</li> <li>・環境省による「生物多様性保全上重要な里地里山」に選定されている</li> <li>・「千葉の里山・森づくりプロジェクト」のモデル地区となっている</li> </ul>
8	結縁寺・草深の森	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人為的な影響を受けやすい立地にある</li> <li>・環境省による「生物多様性保全上重要な里地里山」に選定されている</li> <li>・草深の森は市が管理する森で、市民団体と協働で整備を進めている</li> </ul>
9	物木湧水群・竜腹寺	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境省による「生物多様性保全上重要な里地里山」にも選定されている</li> <li>・学習林として活用されるなど、維持管理の取組みが行われている</li> <li>・ヘイケボタルが観察され、市民に親しまれている</li> </ul>
11	印旛沼①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広い水域は、印西市の自然環境を特徴づける重要な環境である</li> <li>・印旛沼は、沼面や周辺域が鳥獣保護区に指定されている</li> <li>・県内でも有数の水鳥の宝庫である</li> </ul>

※ 調査地区のNo.は、図2と対応します。

### 3. 調査結果

#### 1) 確認種

本調査の確認種数は、鳥類で環境指標を僅かに下回っているものの、他項目は満たしていません。しかし、注目種の確認地区数の減少、外来生物の増加など、生物相の質の低下が懸念されます。

各調査における確認種数は、表4に示すとおりです。

表4 確認種数一覧

項目	平成23年度	令和2年度				
	環境指標	確認種	在来生物	外来生物 <sup>※1</sup>	注目種 <sup>※2</sup>	特定外来生物
植物	803種	967種	682種	285種	55種	5種
哺乳類	9種	10種	8種	2種	2種	1種
鳥類	102種	100種	96種	4種	48種	0種
爬虫類	11種	12種	10種	2種	10種	0種
両生類	6種	8種	6種	2種	5種	1種
昆虫類	387種	737種	716種	21種	39種	1種
魚類	24種	25種	12種	13種	7種	5種
水鳥類	—	34種	33種	1種	15種	0種
ホタル類	—	3種	3種	0種	3種	0種

※1：植栽・逸出・国内由来の外来生物含む。

※2：選定基準の記載種でも千葉県に本来生育・生息していない種は除外。

#### ● 注目種



タシロラン



オオタカ



アカハライモリ

#### ● 特定外来生物



ナガエツルノゲイトウ



アカボシゴマダラ



コウライギギ

## 植物

- 確認種は 967 種で、スギナ、メヒシバなどの草地性の種、イヌビエ、イボクサなどの湿生植物、コナラ、イヌシデ、シラカシ、アオキなどの樹林性の種その他、市街地周辺ではムシトリナデシコ、イチビ、ゼニアオイなどの外来・逸出種も確認された。
- 注目種は 55 種で、樹林内に生育するキンランや水田の畔などに生育するカワヂシャなどが多くの地区で確認された。
- 確認種の約 3 割が外来生物と植栽・逸出種であった。特に、特定外来生物のナガエツルノゲイトウが、多くの地区で用水路や放棄水田、河川、池沼で繁茂していた。

## 哺乳類

- 確認種は 10 種で、アズマモグラやアカネズミ、タヌキなど関東平野の里山で一般的に生息する種その他、河川や湿地、放棄水田等の高茎草原に生息するカヤネズミや、丘陵地から山地の樹林や草地など、比較的広い行動範囲をもつキツネなどの種が含まれた。
- カヤネズミの球形の巣が、河川や放棄水田等にみられるイネ科などの草地で確認された。

## 鳥類

- 確認種は 100 種で、カモ類やサギ類、シギ・チドリ類など水辺環境を好む種や、ヒタキ類、タカ類、ホオジロ類など森林・草地環境を好む種が共に多く確認された。
- 注目種の中では、ツバメ、チュウサギ、ホオジロなどが多くの地区で確認された。
- 千葉県レッドリストでは消息不明・絶滅生物であるクイナが印旛沼で確認された。

## 爬虫類

- クサガメなどカメ類が 4 種、カナヘビ、マムシなどトカゲ・ヘビ類が 8 種確認された。主にため池や水田など耕作地周辺、林縁の草地など人里で見られる種であった。
- 注目種であるスッポンが確認された。自然環境調査におけるスッポンの確認は、今回が初めてである。

## 両生類

- 確認種は 8 種で、アカハライモリが結縁寺・草深の森で初確認された以外はいずれもカエル類で、平地から丘陵地の水田周辺や明るい樹林内など人里で見られる種であった。
- 外来生物（国内由来）のツチガエルが急激に増加し、特定外来生物のウシガエルが多くの地区で定着していた。

## 昆虫類

- 水辺ではギンヤンマなどのトンボ類をはじめ水生昆虫が、水田や畑などの草地ではモンシロチョウなどの草地性のチョウ類やショウリョウバッタなどのバッタ類が、樹林環境ではカナブンなどのコウチュウ類やセミ類などが確認された。
- 注目種の中では、ヒメジュウジナガカメムシなどが多くの地区で確認された。

## 魚類

- 確認種は 25 種で、コイやドジョウなど、河川の中流～下流に一般的に見られる種が多く確認された。
- 注目種の中では、モツゴ、ドジョウ、ヌマチチブなどが多くの地区で確認された。
- 特定外来生物は、コウライギギ、チャンネルキャットフィッシュが前回調査から新たに追加され、計 5 種となった。

## 水鳥類

- オナガガモ、カルガモ、コハクチョウ、オオバン、カイツブリなど、合計で 34 種 9,327 羽の水鳥類が確認された。
- 毎年白鳥の餌付けが行われている「甚兵衛及び白鳥の郷」では、コハクチョウ（647 羽）やオオハクチョウ（5 羽）、ヒシクイ（1 羽）などが確認された。

## ホタル類

- ゲンジボタル、ヘイケボタル、クロマドボタルの 3 種のホタルが確認された。
- ゲンジボタルは主に水田沿いの林縁、ヘイケボタルは主に林縁に近い水田や草地、クロマドボタルは樹林部周辺で確認された。
- ゲンジボタルは前回調査と同様の個体数であったが、ヘイケボタルは大きく減少していた。

### ● 確認されたホタル



ゲンジボタル



ヘイケボタル



クロマドボタル（幼虫）

## 2) 調査地区ごとの特徴

本業務の主な調査地区である、植物及び動物（魚類を除く）を調査対象とする 17 地区について、各地区の特徴を次ページ以降にまとめました。

# 手賀沼

## ● 環境の特徴

市の北西部に位置し、手賀沼とその周辺の水田地帯から成る調査地区です。

調査地区の西側～北側には下手賀沼及び下手賀川の開放水面が広がっています。

調査地区のほとんどは水田地帯となっていますが、放棄水田はほとんどありません。なお、中央部には流れの緩やかな水路があり、水路周辺には樹木も見られます。



● : 調査地区位置



手賀沼



水田地帯

## ● 確認された動植物

水田地帯が多く比較的環境が単調なため、全体的に確認種数は少ないです。

植物では、エノコロ類など草性植物、カヤツリグサ科などの水田雑草、湿生植物が多く確認された一方で、樹林部がないため木本類はあまり確認されませんでした。

動物類では、広い水域やヨシ帯などの環境を反映し、水辺周辺の草地に生息するカヤネズミや、水辺の鳥類であるカモ・チドリ類の他、農薬の少ない止水域を好むコオイムシが確認されました。

項目	確認種	注目種	特定外来生物
植物	258種	2種 (カワチシャ、オグルマ)	2種 (ナガエツルノゲイトウなど)
哺乳類	4種	1種 (カヤネズミ)	0種
鳥類	53種	25種 (チュウサギ、イソシギなど)	0種
爬虫類	2種	1種 (ヤマカガシ)	0種
両生類	3種	1種 (トウキョウダルマガエル)	1種 (ウシガエル)
昆虫類	132種	2種 (コオイムシなど)	0種



イタチ



チュウシャクシギ

# 利根川

## ● 環境の特徴

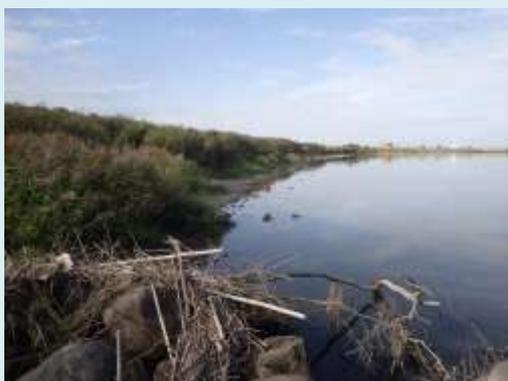
市の北部に位置し、利根川とその河川敷から成る調査地区です。

調査地区の北側には利根川の開放水面が広がっています。

西側の河川敷にはエノキやオニグルミなどがまばらな河畔林を形成しています。東側はオギなどが繁茂する草地となっています。また、南側の堤防沿い草地は刈取り管理が行われていました。



●：調査地区位置



水際の景観



オニグルミ・ヤナギ林

## ● 確認された動植物

調査地区は河川と単一環境のため確認種数は少ないものの、水鳥など注目種が確認されています。

植物では、水際を中心に多くの湿生植物が確認され、高水敷にはヨシやオギを主体とした草原がみられました。また、特定外来生物をはじめとし、確認種の約4割が外来生物等でした。

動物類では、水域に生息する水鳥類やオギ・ススキ草地の好むクロトゲハムシの他、チュウビなどの猛禽類や行動範囲の広いキツネやアライグマなど生態系の上位種が多く確認されました。

項目	確認種	注目種	特定外来生物
植物	250種	12種（オニグルミ、ゴキツルなど）	3種（ナガエツルノゲイトウなど）
哺乳類	7種	1種（キツネ）	1種（アライグマ）
鳥類	47種	20種（オカヨシガモ、イソシギなど）	0種
爬虫類	4種	3種（カナヘビ、マムシなど）	0種
両生類	2種	0種	0種
昆虫類	141種	3種（モンスズメバチなど）	0種



チュウビ



カナヘビ

# 浦部川

## ● 環境の特徴

市の北西部に位置し、谷津田とその周囲を囲む樹林から成る調査地区です。

谷津田は大きく2又に分かれる谷に形成されており、それぞれの中央に小河川が流れています。また、最奥部は放棄水田からヨシ原やヤナギ林などの湿地環境が遷移していました。

谷津田の周辺はスギ・ヒノキ植林や落葉広葉樹林、竹林となっています。



●：調査地区位置



水田・樹林部



浦部川

## ● 確認された動植物

河川など多様な環境を含む谷津田であるため、種数が多く確認されました。

植物では、シダ類や木本類など樹林性の種が多く、水田や放棄水田ではミズニラやオニスゲなど湿生植物も多く、河川沿いにはヨシやヤナギ類などの河川植生が形成されていました。

動物類では、ヤマカガシ、アズマヒキガエルなど爬虫類・両生類や水鳥が多く、河川植生の構成種であるヨシでオオクロカメムシが確認されました。

項目	確認種	注目種	特定外来生物
植物	462種	10種（ミズニラ、イカリソウなど）	0種
哺乳類	5種	1種（カヤネズミ）	1種（アライグマ）
鳥類	41種	15種（カワウ、オオタカなど）	0種
爬虫類	4種	3種（クサガメ、ヤマカガシなど）	0種
両生類	6種	4種（トウキョウダルマガエルなど）	1種（ウシガエル）
昆虫類	198種	6種（ウチワヤンマ、ハイケボタルなど）	1種（アカボシゴマダラ）



ベニシジミ



トウキョウダルマガエル

# 別所

## ● 環境の特徴

市の北部に位置し、主に亀成川・古新田川流域の谷津田と、ニュータウンに隣接する調節池から成る調査地区です。

調査地区の北側が谷津田となっており、中央には小川が流れています。

南側には3つの調節池（うち最北の池はほとんど湿地）が並んでおり、池周囲の急斜面は樹林となっています。



●：調査地区位置



谷津田



池と斜面林

## ● 確認された動植物

池など多様な環境を含む谷津田であるため、確認種数は3番目に多く、注目種は最多でした。植物では、コウホネなどの水生植物やアカシデなどの樹林性植物が多く確認された他、オキナグサやオミナエシなど草地性植物が充実していたことにより多様な植物相が形成されていました。

動物類では、豊かな植物相に付随して昆虫類の確認種数も多く、注目種も全17地区の中で最多でした。池を中心にキイロサナエなどトンボ類の記録がされました。

項目	確認種	注目種	特定外来生物
植物	510種	13種（アカシデ、キンランなど）	2種（ナガエツルノゲイトウなど）
哺乳類	4種	1種（カヤネズミ）	0種
鳥類	48種	18種（オシドリ、オオタカなど）	0種
爬虫類	4種	4種（イシガメ、ヒバカリなど）	0種
両生類	6種	3種（トウキョウダルマガエルなど）	1種（ウシガエル）
昆虫類	234種	16種（ホンサナエ、ウチワヤンマなど）	1種（アカボシゴマダラ）



オオタカの巣



カヤネズミの巣

# 小林

## ● 環境の特徴

市の北東部に位置し、幅の狭い谷津田とその周囲を囲む樹林から成る調査地区です。

谷津田の入口側の水田は作付されていますが、奥側は耕作が放棄され、湿生草地となっています。また、南側にある谷部は、樹林に囲まれた湿地環境となっています。

谷津田の周辺は落葉広葉樹林や竹林となっています。



●：調査地区位置



放棄された谷津田



水田

## ● 確認された動植物

各項目とも、樹林性、草地性、湿地性の種が確認されています。

植物では、樹林部ではシダ類が、放棄水田ではカヤツリグサ科などの湿生植物が多く確認されました。また、確認種に占める外来生物等の割合が約15%と、17地区の中で最も少ない地区となりました。

動物類では、カケスやヤマガラなど山地性鳥類、サラサヤンマ、ヨツキボシカミキリ等の昆虫類が確認されました。

項目	確認種	注目種	特定外来生物
植物	377種	5種（ギンラン、コ克蘭など）	1種（ナガエツルノゲイトウ）
哺乳類	6種	1種（カヤネズミ）	1種（アライグマ）
鳥類	35種	7種（ダイサギ、カケスなど）	0種
爬虫類	3種	3種（トカゲ、ヒバカリなど）	0種
両生類	4種	2種（シュレーゲルアオガエルなど）	0種
昆虫類	224種	8種（ウチワヤンマ、サラサヤンマなど）	0種



ヤマガラ



ヒバカリ

# 草深(原)

## ● 環境の特徴

市の中央部に位置し、印西牧の原駅南側の市街地を調査対象とする調査地区です。

調査地区内には、畑地、裸地、草地、植栽地、住宅地などがパッチワーク状に分布しています。

南側に小水路が流れているものの、全体に乾燥した環境で、市街地に位置しているため人為的な影響を強く受けていました。



●：調査地区位置



畑と草地



畑と住宅地

## ● 確認された動植物

市街地に位置するため全体的に確認種数は少なく、注目種も17地区で最小でした。

植物では、確認種のほとんどがヨモギやメヒシバなど草地性の種でした。外来生物や植栽・逸出種が多く、確認種に占める外来生物等の割合が約3割を占めていました。

動物類では、全般的に確認種数が少なかったものの、耕作地周辺でノウサギなど哺乳類の足跡が多く確認されました。

項目	確認種	注目種	特定外来生物
植物	410種	3種（カシワ、ジュウニヒトエなど）	2種（オオキンケイギクなど）
哺乳類	4種	0種	0種
鳥類	31種	8種（ダイサギ、チョウゲンボウなど）	0種
爬虫類	0種	0種	0種
両生類	2種	1種（シュレーゲルアオガエル）	0種
昆虫類	187種	5種（ミドリヒョウモンなど）	0種



オオキンケイギク



ノウサギの足跡

# 武西・戸神

## ● 環境の特徴

市の南西部に位置します。調査地区は西側の谷部2箇所（武西エリア）と東側の水田地帯（戸神エリア）の3箇所から成ります。

武西は2箇所とも谷部に湿地が広がり、谷の周囲はスギ・ヒノキ植林などになっています。戸神の水田地帯には、中央部を流れる水路や、谷津奥の放棄水田などがあります。また、3箇所全てに小面積ながらハンノキ林が見られました。



●：調査地区位置



武西の湿地



戸神の水田地帯

## ● 確認された動植物

湿地や樹林など多様な環境を含む調査地区であるため、確認種数が17地区で最多でした。

植物では、武西の谷奥にある湿潤な樹林部を中心に多くのシダ類が確認された他、半寄生植物のキンラン、腐生植物のタシロランなど多くのラン類が生育していました。

動物類では、トンボ目・チョウ類ともに本地区での確認種数が多く、幼虫期にイネ科を食草とするジョノメチョウや、ハンノキを食草とするミドリシジミも確認されています。

項目	確認種	注目種	特定外来生物
植物	574種	14種（ミズニラ、タチフウロなど）	3種（ナガエツルノゲイトウなど）
哺乳類	6種	1種（カヤネズミ）	0種
鳥類	48種	18種（チュウサギ、サシバなど）	0種
爬虫類	4種	3種（カナヘビ、ヒバカリなど）	0種
両生類	5種	3種（シュレーゲルアオガエルなど）	1種（ウシガエル）
昆虫類	266種	11種（ツノトンボ、ミドリシジミなど）	0種



ヒメジャノメ



タシロラン

# 結縁寺・草深の森

## ● 環境の特徴

市の南西部に位置します。調査地区は南側の水田（結縁寺エリア）と北側の樹林（草深の森エリア）から成ります。

結縁寺は幅の狭い谷津田で中央に水路が流れています。谷津の最奥部は放棄水田になっており、周囲は斜面林に囲まれています。

草深の森は市が管理する森で、明るい広葉樹林となっていました。



●：調査地区位置



結縁寺の水田



草深の森

## ● 確認された動植物

水田や樹林など多様な環境を含む調査地区であるため、種数が多く確認されました。

植物では、樹林部ではコナラ、クマシデなど落葉樹林の構成種、水田や放棄水田ではオニスゲ、ミズナラなどの湿生植物が多く確認されました。

動物類では、サギ類、トウキョウダルマガエル等水田環境を好む種の他、樹林部ではサシバ、ホトトギス等が確認されました。また、自然環境調査開始以降初めてアカハライモリが確認されました。

項目	確認種	注目種	特定外来生物
植物	528種	14種（タニギキョウ、オニスゲなど）	0種
哺乳類	5種	1種（カヤネズミ）	0種
鳥類	45種	16種（チュウサギ、ハイタカなど）	0種
爬虫類	1種	0種	0種
両生類	6種	4種（トウキョウダルマガエルなど）	1種（ウシガエル）
昆虫類	242種	11種（ヤマサナエ、アサギマダラなど）	0種



キンラン



アカハライモリ

# 物木湧水群・竜腹寺

## ● 環境の特徴

市の北部に位置し、山際から湧く湧水群に囲まれた水田地帯と周囲の斜面林から成る調査地区です。

湧水は、周囲の斜面からしみ出すように湧いていました。水田地帯の中央には小河川が流れており、谷津田の最奥部は放棄水田になっています。谷津田の周辺はスギ・ヒノキ植林や落葉広葉樹林となっています。



●：調査地区位置



水田地帯



水田地帯

## ● 確認された動植物

斜面林からの湧水、小河川など水の豊かな調査地区であるため、種数が多く確認されました。

植物では、トモエソウやオニスゲ、チダケサシ、オモダカなど湿生植物のほか、アオハダなどの樹木やコクランなどの山地性植物の両方が多数確認されました。

動物類では、ヤマカガシ、トウキョウダルマガエル、ジュウサンホシテントウなど水田環境を好む種が多く確認され、また、自然環境調査開始以降初めてスッポンが確認されました。

項目	確認種	注目種	特定外来生物
植物	485種	9種（キンラン、ササバギンランなど）	2種（ナガエツルノゲイトウなど）
哺乳類	5種	1種（カヤネズミ）	0種
鳥類	44種	16種（チュウサギ、ノスリなど）	0種
爬虫類	5種	5種（スッポン、ヤマカガシなど）	0種
両生類	6種	3種（トウキョウダルマガエルなど）	1種（ウシガエル）
昆虫類	240種	6種（ハラビロトンボなど）	1種（アカボシゴマダラ）



ヒゲナガハナノミ



スッポン

# 甚兵衛

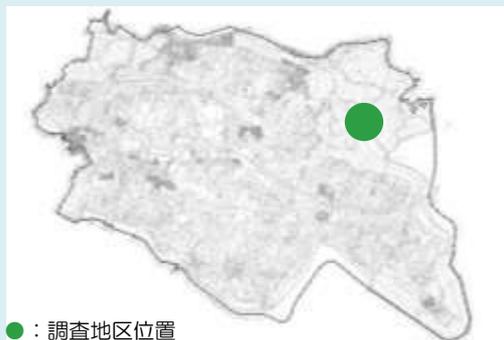
## ● 環境の特徴

市の北東部に位置し、小規模な沼とその周辺の水田地帯から成る調査地区です。

調査地区内には、4つの沼の他、小河川や小水路が流れています。

調査地区のほとんどは水田地帯となっていますが、放棄水田はほとんどありません。

また、池周辺に小面積の樹林帯がありました。



●：調査地区位置



沼環境



水田地帯

## ● 確認された動植物

沼や放棄の少ない水田地帯で比較的環境が単調なため、水域・湿生地を好む種が多く確認されました。

植物では、草地性の種、水田雑草類、湿生植物が大部分を占めていますが、一部に樹林帯があるためシラカシなど木本類も確認されました。また、河川にはナガエツルノゲイトウが繁茂していました。

動物類では、広い水域がある環境を反映し、カモ類やサギ類など水鳥類が多く、水田環境を好む種の外に、キアシミズギワコメツキなど水際の砂礫を好む種が確認されました。

項目	確認種	注目種	特定外来生物
植物	301種	2種（オニグルミ、カワチシャ）	3種（ナガエツルノゲイトウなど）
哺乳類	4種	1種（カヤネズミ）	0種
鳥類	47種	21種（チュウサギ、オオタカなど）	0種
爬虫類	4種	3種（カナヘビ、ヤマカガシなど）	0種
両生類	5種	2種（トウキョウダルマガエルなど）	1種（ウシガエル）
昆虫類	163種	2種（モンスズメバチなど）	0種



コハクチョウ



チュウサギ

# 印旛沼①

## ● 環境の特徴

市の東部に位置し、印旛沼北部調整池とその周辺の水田地帯から成る調査地区です。

調査地区の東側には印旛沼の開放水面が広がっています。

調査地区のほとんどは水田地帯となっておりますが、放棄水田はほとんどありません。なお、中央部には流れの緩やかな水路があり、周辺で工事が行われていました。



●：調査地区位置



印旛沼



ナガエツルノゲイトウ

## ● 確認された動植物

水田地帯が多く比較的環境が単調なため、全体的に確認種数は少ないです。

植物では、ヨモギなど草地性植物、イネ科やカヤツリグサ科などの水田雑草類、湿生植物が多く確認された一方で、樹林部がないため木本類はあまり確認されませんでした。

動物類では、鳥類が多数確認され、注目種は17地区で最多でした。特に印旛沼ではカモ類、サギ類、チドリ類などの多くの水鳥が記録されており、カイツブリも多く確認されました。

項目	確認種	注目種	特定外来生物
植物	269種	5種（コギシギシ、タコノアシなど）	1種（ナガエツルノゲイトウ）
哺乳類	5種	0種	0種
鳥類	66種	31種（ヨシゴイ、チュウサギなど）	0種
爬虫類	4種	3種（クサガメ、アオダイショウなど）	0種
両生類	4種	1種（トウキョウダルマガエル）	1種（ウシガエル）
昆虫類	164種	2種（ギンイチモンジセセリなど）	0種



クイナ



カンエンガヤツリ

# 萩原

## ● 環境の特徴

市の東部に位置し、主に畑地や樹林から成る調査地区です。

複雑に入り組んだ地形の台地上には畑地が広がりやや乾燥した環境になっています。低地には水田や放棄水田、池や水路など、湿地、水辺環境が多く広がっています。

また、斜面部分はスギ・ヒノキ植林や落葉広葉樹林、竹林となっていました。



●：調査地区位置



台地上の畑



斜面林と水田

## ● 確認された動植物

畑、水田、樹林など多様な環境を含む調査地区ですが、確認種数は多くありませんでした。

植物では、アキザキヤツシロランなど樹林性植物が多く確認された他、スベリヒユやザクロソウなど畑の雑草類なども確認され、また、低地の水辺を中心に特定外来生物が確認されました。

動物類も、ヤマガラ、シュレーゲルアオガエルなど樹林性の種が多く確認された他、スズメ、シロハラ、ツグミ、トカゲ類、ゴミムシなど畑地や藪環境を好むも確認されました。

項目	確認種	注目種	特定外来生物
植物	472種	12種（キンラン、クマガイソウなど）	1種（ナガエツルノゲイトウ）
哺乳類	5種	1種（カヤネズミ）	0種
鳥類	39種	15種（ダイサギ、サシバなど）	0種
爬虫類	5種	5種（トカゲ、ヤマカガシなど）	0種
両生類	5種	3種（トウキョウダルマガエルなど）	1種（ウシガエル）
昆虫類	150種	2種（イネカメムシ、ヤマトシリアゲ）	0種



アキザキヤツシロラン



スズメ

# 吉高

## ● 環境の特徴

市の東部に位置し、谷津田とその周囲を囲む樹林から成る調査地区です。

谷津田は大きく3又に分かれる谷に形成されています。最奥部は放棄水田となっているところが多く、湿地環境が形成されています。

谷津田の周辺はスギ・ヒノキ植林や落葉広葉樹林、竹林となっていました。



●：調査地区位置



水田地帯



谷津奥の樹林

## ● 確認された動植物

湿地や樹林など多様な環境を含む調査地区であるため、比較的種数が多く確認されました。

植物では、タコノアシやミズニラなどの湿生植物とスギ、ヒノキ、コナラなどの樹林の構成種が確認されました。斜面林にはミヤマウスラなどのラン類がみられ、キンランは多数生育していました。

動物類では、谷津奥の樹林部などでフクロウやヒメスギカミキリなど樹林性の種が確認されました。水田では、全域でトウキョウダルマガエルが多数確認されました。

項目	確認種	注目種	特定外来生物
植物	476種	11種（ミズニラ、カテンソウなど）	1種（ナガエツルノゲイトウ）
哺乳類	5種	1種（カヤネズミ）	0種
鳥類	40種	12種（ハヤブサ、オオヨシキリなど）	0種
爬虫類	1種	1種（カナヘビ）	0種
両生類	5種	3種（トウキョウダルマガエルなど）	1種（ウシガエル）
昆虫類	202種	9種（ウチワヤンマ、コハンミョウなど）	0種



ノコギリクワガタ



モス

## 印旛沼②

### ● 環境の特徴

市の東部に位置し、甚兵衛広沼とその周辺の水田地帯から成る調査地区です。

調査地区の北東側には甚兵衛広沼の開放水面が広がっています。沼の周囲はヨシやヤナギ類が抽水する湿地となっています。

調査地区のほとんどは水田地帯となっており、所々にある放棄水田が湿生の草地となっていました。



●：調査地区位置



印旛沼



水田地帯

### ● 確認された動植物

水田地帯で比較的環境が単調なため確認種数は少ないものの、水域環境を好む種が多く確認されました。

植物では、キツネアザミやアキノノゲシなど草地性植物、イネ科やカヤツリグサ科等の水田雑草類、湿生植物が多く確認された一方で、樹林部がないため木本類はあまり確認されませんでした。

動物類では、広い水域やヨシ帯などの環境を反映し、水辺周辺の草地に生息するカヤネズミや、水辺の鳥類であるカモ類、サギ類などが確認され、また、セッカが多数確認されました。

項目	確認種	注目種	特定外来生物
植物	249種	3種（イヌエンジュ、カワチシャなど）	2種（ナガエツルノゲイトウなど）
哺乳類	6種	1種（カヤネズミ）	0種
鳥類	42種	18種（チュウサギ、オオバンなど）	0種
爬虫類	3種	2種（クサガメ、カナヘビ）	0種
両生類	3種	1種（トウキョウダルマガエル）	1種（ウシガエル）
昆虫類	151種	4種（チョウトンボなど）	1種（アカボシゴマダラ）



ヤマトシジミ本土亜種



オオバン

# 平 賀

## ● 環境の特徴

市の南東部に位置し、主に台地上の畑地と樹林から成る調査地区です。

台地上には畑地と住宅地がパッチワーク状に広がっており、やや乾燥した環境となっています。

台地周囲の急斜面は、主にスギ・ヒノキ植林となっており、斜面下部は水田地帯となっています。



●：調査地区位置



台地上の耕作地



水田地帯

## ● 確認された動植物

樹林と畑が多くやや環境は単調なため確認種数が多くはありませんでした。

植物では、シダ類やキンランが多く確認されるなど、構成種の大部分を樹林性の種が占めていましたが、ギシギシ類やナズナなどのアブラナ類の草地性植物、水田雑草も確認されました。

動物類も、オオタカ、キビタキなど樹林性の種が多く確認されました。また、周囲の水田ではチュウサギの集団やトウキョウダルマガエル、チョウトンボが多く確認されました。

項目	確認種	注目種	特定外来生物
植物	427種	8種（キンラン、ササバギンランなど）	1種（ナガエツルノゲイトウ）
哺乳類	5種	1種（カヤネズミ）	0種
鳥類	39種	15種（チュウサギ、オオタカなど）	0種
爬虫類	3種	2種（カナヘビ、マムシ）	0種
両生類	2種	1種（トウキョウダルマガエル）	0種
昆虫類	209種	8種（アオヤンマ、ジャンメチョウなど）	0種



マイマイカブリ関東・中部地方亜種



オオタカ

## 印旛沼③

### ● 環境の特徴

市の南部に位置し、印旛沼西部調整池とその周辺の水田地帯から成る調査地区です。

調査地区の南側には印旛沼の開放水面が広がっています。

調査地区のほとんどは水田地帯となっており、所々にある放棄水田はヨシが繁茂したり、湿生の草地となっていました。また、水田内の一角に小面積ながら落葉広葉樹林がありました。



●：調査地区位置



印旛沼



休耕田

### ● 確認された動植物

水田地帯で比較的環境が単調なため確認種数はやや少ないものの水域環境を好む種が多く確認されました。

植物では、サデクサやヒメタデなどの湿生植物や水田雑草が確認種の大部分を占めていましたが、ヌルデなど木本類も確認されました。また、調査地区全域にナガエツルノゲイトウの繁茂が観察されました。

動物類では、カンムリカイツブリやヨシゴイなどの水鳥類やチュウヒなどの猛禽類、ウチワヤンマやチョウトンボなどのトンボ類が多く確認されました。

項目	確認種	注目種	特定外来生物
植物	385種	4種（ヒメタデ、カワチシャなど）	2種（ナガエツルノゲイトウなど）
哺乳類	5種	1種（カヤネズミ）	0種
鳥類	43種	21種（ダイサギ、チュウヒなど）	0種
爬虫類	1種	0種	0種
両生類	4種	1種（トウキョウダルマガエル）	1種（ウシガエル）
昆虫類	184種	8種（ウチワヤンマ、チョウトンボなど）	0種



ナンバンギセル



ウチワヤンマ

# 師 戸

## ● 環境の特徴

市の南部に位置し、師戸川とその周辺の水田地帯から成る調査地区です。

師戸川が調査地区を南北に流れています。

調査地区のほとんどは水田地帯となっており、谷津田の奥などにある放棄水田は湿生の草地となっています。

谷津田の周辺はスギ・ヒノキ植林や落葉広葉樹林となっていました。



●：調査地区位置



師戸川



水田地帯

## ● 確認された動植物

湿地や樹林など多様な環境を含む調査地区であるため、比較的種数が多く確認されました。

植物では、樹林部ではシダ類が、放棄水田ではミズニラ、タコノアシ、カヤツリグサ科などの湿生植物が多く確認されました。

動物類では、カヤネズミ、チュウサギやトウキョウダルマガエルが地区内全域で多数確認されるなど、水田環境を好む種が多く確認されました。

項目	確認種	注目種	特定外来生物
植物	456種	6種（タコノアシ、カワチシャなど）	1種（ナガエツルノゲイトウ）
哺乳類	5種	1種（カヤネズ）	0種
鳥類	45種	18種（チュウサギ、ハイタカなど）	0種
爬虫類	3種	2種（カナヘビ、アオダイショウ）	0種
両生類	4種	2種（トウキョウダルマガエルなど）	1種（ウシガエル）
昆虫類	218種	4種（アオヤンマ、コハンミョウなど）	0種



アオヤンマ



ショウヒタキ





いんザイ君



印西市

印西市 環境経済部 環境保全課  
〒270-1396 千葉県印西市大森 2364-2  
TEL 0476-42-5111 代表  
TEL 0476-33-4491 保全係直通  
MAIL [kankyoka@city.inzai.chiba.jp](mailto:kankyoka@city.inzai.chiba.jp)

